

治山事業の施工事例



長野市郷路【山腹工】



伊那市小原【山腹工・谷止工・森林整備】



栄村中条川【セルダム工】



泰阜村我科【山腹工（アンカー工）】



天龍村柳沢【谷止工】



諏訪市三ノ久保【谷止工（嵩上げ・増厚）】



辰野町下飯沼沢【流路工・谷止工】



小川村夏和田【山腹工】



飯田市山本【森林整備（本数調整伐）】



岡谷市小田井沢【森林整備（本数調整伐・簡易治山施設）】

治山事業における木材利用

長野県では、平成21年に改訂した「長野県県産材利用指針」に基づき、治山事業における木材利用に努めています。

木材利用にあたっては、木材の長所（軽量で運搬性が良い、加工が容易、部材単価が安価等）、短所（初期品質・劣化速度のバラツキが大きい、耐久性に劣る等）を十分に考慮した上で、「木製が良い場所に現地に適した構造」で使用しています。

【キーワード】

◆分散・平面的配置

・・・1ユニットの大きさを小さくして、構造物にかかる力を小さくする。

◆木材が腐朽するまでの仮設的使用

・・・腐朽後は植生回復や土の締め固まり等により機能が置き換わることを前提として使用する。

大部分を水中又は土中に埋めて、腐朽を遅らせる。



木工沈床併用床固工

流水による溪床の洗掘・侵食を防止します。治山ダム工の背面において階段状に使用することで能動的に溪床安定化を図ることができます。また、治山ダムの堤高を低くすることもできるため流域の分断が回避できます。



伐木筋工

本数調整伐等によって発生した伐採木を千鳥状に配置して杭等で固定します。最小限の加工により施工でき、伐採木の切捨て・林内放置による弊害が回避できます。



流路工



型枠工



筋工



丸太積工



基礎工



大型丸太積工（押え盛土工）